

第三セクター等経営健全化方針

1. 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和4年3月31日

作成担当部署 総務課

2. 第三セクター等の概要

法人名 株式会社 信州平谷温泉

代表者名 代表取締役 西川清海（平谷村長）

所在地 長野県下伊那郡平谷村252番地

設立年月日 平成8年11月12日

資本金30,000千円【当該地方公共団体の出資額（出資割合）19,500千円（65.0%）】

業務内容・温泉施設管理運營業務（温泉、宿泊、レストラン、売店）

- ・森林空間活用施設の管理運營業務（コテージ）
- ・販売業務（農産物加工販売及びオリジナル商品の開発）
- ・温水プール施設の管理運營業務
- ・道の駅信州平谷の運営管理業務

3. 経営状況、財政的なりスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

当法人は村・村民（1人1株【200株】）・企業【80株】の出資により平成8年11月に「ひまわりの湯」、「ひまわりの館」を管理運営する第三セクターとして設立された。当時の温泉ブームや良質な泉質と大露天風呂が評判を呼び、年間入込客数は30万人前後で推移し、平成29年度までは源泉・施設使用料として32,500千円を村へ納付していた。

また、設立以来、観光立村としての平谷村の中核施設であるとともに、最大の雇用の場としての一躍を担っているが、温泉施設の利用客の減少（第22期（平成30年度）157,625人、第23期（令和元年度）161,368人）から、同施設の収益が減少（第22期213,019千円、第23期212,321千円）すると同時に、燃料高騰による経常費用も膨らみ、厳しい経営状況となっている。

現在の財務状況については、目標とする集客の売上・利益に届かない状況が続いており、長期・短期の借入を行っている状況で、第22期決算（平成30年度）における純資産額は13,983千円であったが、第23期決算（令和元年度）において純資産額△2,012千円となり、債務超過が生じることとなった。

本村は第三セクターとしての当該法人に対し損失補償、債務保証等を行っていないが、平成30年度と令和元年度には、源泉・施設使用料を13,500千円減免する財政支援と村長（代表取締役）及び議員1名（取締役）が、当該法人との十分な協議や連携を図ったうえで、法人経営の健全化に向けて指導を行っている。

4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

株式会社信州平谷温泉は、本村の基幹産業ある観光業にとって大きな役割を果たしており、経済を含む地域活性化のためにも、今後も事業を継続していく必要がある。

直近3ヵ年の経営状況でみると、入湯客は14万人から16万人で推移。経常収益は2億1千万円程度を維持しているが、いずれの年度も経常利益がマイナス計上となっている。

経営面においては、「第三セクターで村民が株主であり村民の会社」を基本方針とし、源泉掛け渡し温泉として他社との差別化を図り、従業員に対しては接客に重点を置き適切な教育と経費削減に努めるよう意識改革を実施しながら管理運営している。

また、本村観光業の中心施設として、村内のスキー場等観光施設との連携と村の特産品及び農産物を中心に地元生産物の販売・消費に注力し、合宿誘致などにも積極的に取り組み、交流人口の拡大、利用者満足度の向上に向けた取り組みを行いながら、部門ごとの経費の見直しを進めた上で、積極的な経営改革を行い経営の改善を図っていく。

5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応（令和3年度）】

- ・アフターコロナに対応すべく、顧客の動向変化を見極め、店舗レイアウトの適時変更やSNSの積極的導入で、日々の状況・季節商品をリアルタイムに情報発信し、安全・安心を感じられる施設とし、ひまわり市場の商品・農産物等のネット販売も実施した。
- ・レストラン部門のメニュー見直し・営業時間の見直しを行い経営体質の改善を図った。
- ・送迎バスを利用した宴会プランを充実させ集客アップに努めた。

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応（令和3年度）】

- ・コロナ禍における休業・交流人口の減少により、源泉・施設使用料を17,500千円減免し指定管理委託料35,000千円を支援した。
- ・令和3年2月に「村議会産業建設委員会第三セクター検討会」を開催し、外部専門家などを活用した進捗管理、評価、検証、定期的な従業員研修を実施した。

【代表取締役社長・支配人の交代による、経営計画の作成（令和4年2月）】

長引くコロナ禍において、まん延防止等重点措置の延長や、社会経済活動の低迷、燃料や原材料の供給不足と物価上昇などが続いており、「日常」を取り戻すにはまだまだ時間がかかると思われます。こうした厳しい状況ではありますが、コロナ禍における経営改善・従業員の意識改革の研修に取り組み経営計画を作成いたしました。

「経営基本方針」

株式会社信州平谷温泉は、株主、住民と共に経営向上に努め地域振興、観光振興の事業展開をおこないます。

「経営理念」

- (1) 「人材を育成し、より安全な温泉施設と高品質のサービスを提供します。
- (2) 健康に寄与し豊かな生活環境を目指し住みよい地域づくりに貢献します。
- (3) 株主、住民と共に豊かさを求め、あたたかい人間関係を築きます。

「将来の目標」

村民と株主の負託に応える事業展開を行うため、持続可能な経営基盤を確立して行きます。

「目標達成のための行動計画」

- (1) 入湯者の増加を図り売り上げを確保する。
- (2) 施設及びサービスの充実を図る。
- (3) 「原価低減」活動を推進し支出を抑制する。

具体的には、令和4年4月1日より、

- ・温泉入浴料金大人600円を800円に、小人300円を500円に、平谷村民（大人）200円を300円に、平谷村民（小人）100円を青少年健全育成と福祉の面から、対象を小学生以下から中学生以下に変更し、料金は無料とする。
- ・プール利用料金大人800円を1,000円に改定し、売り上げの向上を図ります。
- ・宿泊関係は、3つの宿泊プランを作り、地産地消に重点を置き、売り上げとリピーターの増加を図ります。
- ・食事関係は、メニューと料金を見直し、経営の改善と従業員の資質の向上を図ります。

6. 法人の財務状況（別紙のとおり）